

力、鈎歯に対する把握力を増加させるためには、太く強固なアームが要求される事になる。しかしこれは反面鈎歯の植立、存続そのものを脅かすことがあると言うマイナス面を持つていることも指摘されて来た。太く頑丈なクラスプは歯牙周囲の自浄作用を阻害し、清掃の妨げになることも否定出来ない。出来るだけ細いアームで鈎歯を衛生的に保ちながら、必要な強度を確保するための手段として先人達は、ループクラスプを考案し実用化した。ループ形態を取る事により細いワイヤーを使用しながら、クラスプとしての強度を伸ばし、更に衛生的な一面を満足させる為に種々の形態のクラスプが発表され、用いられて来た。オープンループクラスプとしてデュラフォン、ジャクソン、ローチ、ゲーベルらのクラスプが挙げられる。またダブルループクラスプとしてはゴスリー、エースイッヒ、オトレンギー、ローチ等のものが挙げられる。今回はこれらに就いて述べてみたい。

(東京医科歯科大学歯科補綴学教室)

22 東京勸業博覧会の歯科出品物

(第二報)

歯磨および歯ブラシについて

○大橋 正敬・西山 實

東京勸業博覧会は、明治四十年三月二十日から同年七月三十一日まで、東京上野で、東京府主催で開催され、多くの歯科用品が出品された。我々はこれら出品物のうち、第一報として歯科器材について報告したが、今回第二報として歯磨および歯ブラシの出品物について報告する。

本研究には「東京勸業博覧会実記(高木栄吉・清宮秀之助編)」、「東京勸業博覧会受賞人名録(東京府編)」および「東京勸業博覧会審査報告(東京府編)」を主な資料として用い、歯磨はそれらの第八部第七十七類、歯ブラシは第十一部第六六類を中心に調査を行ったところ、次のようなことが明らかになった。

(一) 歯磨の出品者は十九名で、東京府主催のため、東京の出品者が十八名と多く、残りの一名が大阪の出品者であった。

(二) 第五回内国勸業博覧会（明治三十六年、大阪で開催）に続いて今回も歯磨を出品したものは、斉藤吉次郎、福原有信、長瀬富郎、平尾賛平、大野金五郎、前神醇一、小林富次郎および安藤福太郎であった。

(三) 第一回（明治十年、東京で開催）から第五回までの各内国勸業博覧会に連続して歯磨を出品し、毎回受賞していた波多海蔵は今回出品した記録がない。

(四) 歯ブラシの出品者は東京および大阪から各一名、合計二名であった。

(五) 歯磨での受賞者は十五名であった。一等賞は小林富次郎、平尾賛平および安藤福太郎の三名、二等賞はなく、三等賞は長瀬富郎、山根光次、武井龍三、丸善株式会社、日本歯科製剤合資会社、福原有信および斉藤吉次郎の七名、褒状は吉岡喜十郎、井岡徳太郎、古屋茂三郎および大野金五郎の四名、記念三等賞は前神醇一の一名がそれぞれ受賞した。

(六) 第五回内国勸業博覧会に続いて今回も歯磨で受賞したものは、小林富次郎、平尾賛平、安藤福太郎、長瀬富郎、福原有信、斉藤吉次郎、大野金五郎および前神醇一の八名であった。

(七) 歯ブラシでの受賞者は一名で、大阪の小林朝之助が記念三等賞を受賞した。

(八) 出品された歯磨はその三分の二が粉歯磨、三分の一が練歯磨で、数点の水歯磨があった。

(九) 粉歯磨の多くは炭酸カルシウムを主成分とするもので、その品質は良好であった。

（日本大学歯学部歯科理工学教室）